

医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究

3. 医療機関等における感染制御に関する研究

研究分担者

泉川 公一（長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授）
大石 和徳（国立感染症研究所・感染症疫学センター・センター長）
賀来 満夫（東北大学大学院・医学系研究科・教授）

研究協力者

小佐井 康介（長崎大学病院・検査部・助教）
田代 将人（長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・助教）
河野 圭（長崎大学病院・感染制御教育センター・助教）

研究要旨

本研究は、本邦の医療機関で問題となっているメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）、基質拡張型 β -ラクタマーゼ（ESBL）産生菌、多剤耐性緑膿菌（MDRP）、多剤耐性アシネトバクター（MDRA）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）といった薬剤耐性菌について、日本国内における感染対策加算を取得している医療機関を対象として、各地域や施設における感染対策実施の現状を郵送によるアンケート調査により把握し、今後の日本国内の医療機関における院内感染対策に活かすものである。

A. 研究目的

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）、基質拡張型 β -ラクタマーゼ（ESBL）産生菌、多剤耐性緑膿菌

（MDRP）、多剤耐性アシネトバクター（MDRA）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）などの拡がり懸念されている現状において、日本の各地域や施設における感染対策実施の現状

を把握し、今後の対策に役立てることを目的とする。

B. 研究方法

多剤耐性菌の伝播予防策の実施状況に関するアンケートを作成し、院内感染対策加算を取得している病院を中心に全国の医療機関にアンケートを送付し、集計する。

(倫理面への配慮)

患者の個人情報等は収集せず、施設の状況についてのみ情報を収集するため、倫理面への配慮は必要ない。

C. 研究結果

アンケート調査内容について、微生物検査、感染対策の実施内容、積極的監視培養、抗菌薬の適正使用の4項目について、それぞれ、質問を設け、以下の全16項目のアンケートを作成した(資料1)。

D. 考察

アンケート内容に関しては、記載内容について、回答者が容易に答えやすいように工夫をし、最大限の情報が得られるような設問とした。

E. 結論

アンケート送付の対象となる医療機関の選定に時間を要し、平成28年度内の送付ができなかった。平成29年度は早々に、アンケートを送付し、調査を開始する予定である。

F. 研究発表

1. 論文発表

当該研究においては、なし。

2. 学会発表

当該研究においては、なし。

G. 知的財産権の出願・登録状況

平成28年度は、なし

多剤耐性菌の伝播予防策の実施状況に関するアンケートのお願い

本アンケートは平成 29 年度新興・再興感染症および予防接種推進研究事業（平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金）により実施される「医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究」の一環として、皆様方のご施設における多剤耐性菌の伝播予防策の実施状況についてお尋ねするものです。

本研究は、かねてからの問題であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）、基質拡張型 β -ラクタマーゼ（ESBL）産生菌、多剤耐性緑膿菌（MDRP）、多剤耐性アシネトバクター（MDRA）に加え、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）などの拡がり懸念されている現状において、各地域や施設における感染対策実施の現状を把握し、今後の対策に役立てることを目的としています。

本アンケートでは施設名のご記入は任意です。また、本アンケートで得られた内容は、学会や論文、報告書などにおいて広く発表される予定ですが、施設名をご記入いただいた場合でも公表されることはありません。

本アンケートは上述の目的を達成する上で大変重要な調査と考えておりますが、もし何らかの理由で参加できない場合は、その旨を回答としてお送りいただければ幸いです。

集計などの都合上、ご提出していただく期限を**月末日とさせていただきたいと思っております。

ご多忙の中、大変恐縮ではありますが、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

ご提出期限：平成 28 年月**日（**）**

（同封されている封筒をご使用の上、投函して下さい。）

研究者

柳原 克紀（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野）

大石 和徳（国立感染症研究所 感染症疫学センター）

賀来 満夫（東北大学大学院医学系研究科 総合感染症学分野）

三嶋 廣繁（愛知医科大学大学院医学研究科 臨床感染症学）

山本 善裕（富山大学大学院医学薬学研究部 感染予防医学講座）

泉川 公一（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 感染免疫学講座 臨床感染症学分野）

大曲 貴夫（国立研究開発法人 国立国際医療研究センター）

郵送先（問い合わせ先）

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金

「医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究」班 事務局

住所：〒852-8501 長崎市坂本1-7-1

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学 内

電話：095-819-7574

多剤耐性菌の伝播予防策の実施状況に関するアンケート

【アンケートへの参加について】

1. 本アンケートへの参加について教えてください。

() 参加できる

() 参加できない(理由:) 終了です。

【ご施設について】

2. ご施設名を教えてください(任意)。()

3. 所在地(都道府県)を教えてください。()

4. 所有する病床数をすべて教えてください。

一般病床() 床) 療養病床() 床) 精神病床() 床)

感染症病床() 床) 結核病床() 床)

5. 所有する病床機能についてあてはまるものすべてに を付けて下さい。

() 高度急性期機能、() 急性期機能、() 回復期機能、() 慢性期機能

6. 平成 28 年度の感染防止対策加算の算定状況についてあてはまるもの一つに を付けて下さい。

() 感染防止対策加算 1 を算定している。

() 感染防止対策加算 2 を算定している。

() いずれも算定していない。

【微生物検査について】

7. 日常的な微生物検査についてあてはまるものすべてに を付けて下さい。

() 微生物検査は院内で実施している。

() 微生物検査は検査センターなどに外注している。

その場合、重要な耐性菌検出の結果がリアルタイムに返却される(はい・いいえ)

() (院内、外注を問わず) 必要と判断された菌株に対して日常的にカルバペネマーゼの検出を行っている。カルバペネマーゼの検出法を記載して下さい()

() 耐性菌のサーベイランス(集計など)を実施し、発生状況を把握している。

その場合、対象菌()

【感染対策の実施について】

8. 下記の薬剤耐性病原体の中で、日常検査で検出可能なものに を付けて下さい。検出可能な場合は更に、検出された際の対応として、隔離(カーテン隔離を含む)を必ず行うものには を、考慮するものには を、隔離しないものにはxを付けて下さい。

	検出可能なもの	検出された際の対応
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)		
バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE)		
多剤耐性緑膿菌 (MDRP)		
多剤耐性アシネトバクター (MDRA)		
基質拡張型 β-ラクタマーゼ (ESBL) 産生菌		
カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌 (CPE)		
カルバペネマーゼ非産生カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CPEでないCRE)		

9. 隔離・接触予防策の開始・解除の決定者についてあてはまるもの一つに を付けて下さい。
- () 感染対策チーム(感染制御チーム)が決定している。
- () 感染制御部(感染症科を含む)が決定している。
- () 主治医が決定している。
- () その他(具体的に: _____)
10. 隔離・接触予防策の開始と解除の基準について、あてはまるもの一つに を付けて下さい。
- () 院内で、マニュアル化された明確な基準がある。
- () 基準はなく、感染対策チームが決定している。
- () 基準はなく、主治医が判断している。 質問14へ
11. 接触予防策を開始する基準について、あてはまるものすべてに を付けて下さい。
- () 上記の病原体が分離されたら、全ての患者に対して、開始する。
- () 検体の種類を考慮する。
- () 保菌量を考慮する。
- () 周囲の環境汚染(飛沫を含む)のリスクを考慮する。
- () 感染症を発症しているかを考慮する。
- () 検体の種類、保菌量、周囲の環境汚染のリスク、発症の有無を総合的に判断する。
- () その他(具体的に: _____)

() その他 (具体的に :)

1 2 . 接触予防策を解除する基準で、あてはまるもの一つに を付けて下さい。

() 培養陰性を確認し、終了している。

() 菌種に応じて解除基準を変更している。 質問 1 4 へ

() 検体の種類、保菌量、周囲の環境汚染のリスク、発症の有無を総合的に判断して、終了している。 質問 1 4 へ

() その他 (具体的に :) 質問 1 4 へ

1 3 . 培養陰性の確認回数と、培養検査を行う間隔であてはまるもの一つに を付けて下さい。

1) 培養陰性確認回数

() 1 回のみ () 連続 2 回 () 連続 3 回 その他 (回)

2) 培養検査の間隔

() 1 週に 1 回提出

() 1 週に 2 回提出

() 1 週に 3 回提出

() 間隔は問わない

() その他 (具体的に :)

【積極的監視培養について】

1 4 . 積極的監視培養の実施についてあてはまるものすべてに を付けて下さい。

() アウトブレイクが起こった際に実施している。

() 対象患者を決めて実施している。(具体的に :)

() 実施していない。

() その他 (具体的に :)

【抗菌薬の適正使用について】

1 5 . 抗菌薬の使用についてあてはまるものすべてに を付けて下さい。

() 注射用抗菌薬使用を届出制にしている。

対象抗菌薬を記載して下さい ()

() 注射用抗菌薬使用を許可制にしている。

対象抗菌薬を記載して下さい ()

() 内服用抗菌薬使用を届出制にしている。

対象抗菌薬を記載して下さい ()

- () 内服用抗菌薬使用を許可制にしている。
対象抗菌薬を記載して下さい()
- () 定期的に使用量をチェックしている。
- () 実際の投与について、相談を受け、助言する担当者がある(または部署がある)。
- () 適切でないと思われる抗菌薬の使用については、積極的に介入している。
- () 長期間使用している症例に、積極的に介入している。
その場合、何日以上を長期間としていますか？ () 日以上
- () その他(具体的に：)

【その他】

16. その他、全体を通して何かありましたらご記入ください。

お疲れ様でした。ご協力、誠にありがとうございました。